



永遠の日本のふるさと遠野

遠野市多機関の協働による包括 的支援体制構築事業の取り組み について

～平成30年度第3回市町村セミナー 地域共生社会について～

平成31年3月13日

岩手県遠野市
健康福祉部健康長寿課

包括支援係長兼地域包括支援センター主査 菊池錠二

1 はじめに

永遠の日本のふるさと遠野



遠野市の概要

● 将来像

永遠の日本のふるさと遠野

● 遠野市の花・鳥・木



やまゆり



やまどり



いちい

● 特産品



ホップ



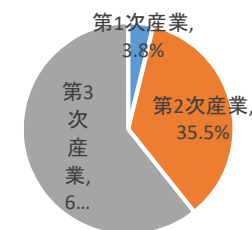
わさび



- 人口 : 27,067人
- 世帯数 : 10,771世帯
- 高齢化率 : 38.8%
(H31年 3月 1日現在)
- 面積 : 825.97 km²

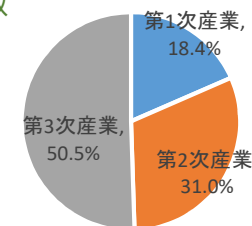
● 市内純生産額

737億円
(2012年度)

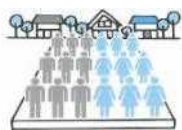


● 産業別就業者数

14,291人
(2015年度)



1 km²当たりの人口



33.76人 (H29. 9. 30現在)

1世帯の人口



2.56人 (H29. 9. 30現在)

1月当たり出生数



10.92人 (平成28年度)

1月当たり死亡数



41.08人 (平成28年度)

1月当たり結婚数



6.08組 (平成28年度)

1人当たり市民所得

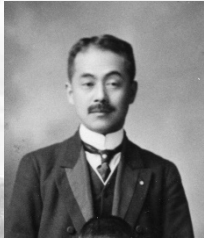


2,321千円 (平成27年度)



1 はじめに

遠野のゆかりの民俗学の先人と『遠野物語』



柳田 國男

～ 日本民俗学の父 ～

明治8年兵庫県神崎郡福崎町生まれ。東京帝国大学法学科で農政学を学び、卒業後、農商務省に入省。農村視察・調査体験や佐々木喜善と出会う。喜善から聞いた遠野の話を、明治43年『遠野物語』として発刊。日本民俗学の出発を告げる記念碑となる。



佐々木 喜善

～ 昔話研究の先駆者 ～

明治19年遠野市土淵町生まれ。明治36年に若手医学校を中退し、早稲田大学在学中に、柳田國男と出会い、遠野の話を伝える。喜善は昔話の採集に大きな業績を残し「日本のグリム」とも讃えられている。



伊能 嘉矩

～ 台湾人類学の先駆者～

慶応3年遠野市生まれ。明治28年に台湾総督府に勤務して、地誌、民族などを調査。特に台湾原住民の研究では膨大な成果を残し、その研究は没後『台湾文化志』などにまとめられる。帰国後、佐々木喜善とともに柳田の『遠野物語』成立に影響を与えた。

平成29年は「生誕150年」の節目

この話はすべて遠野の人、佐々木鏡石君より聞きたり。昨明治四十二年の二月頃より始めて夜分折々訪ね来り、この話しをせられしを筆記せしなり。鏡石君は話し上手にはあらざれども誠実なる人なり。自分もまた一字一句も加減せず、感じたままを書きたり。思ふに遠野郷には此類の物語猶数百件あるならん。我々はより多くを聞かんことを切望す。国内の山村にして遠野より更に物深き所には又無数の山神山人の伝説あるべし。願はくは之を語りて平地人を戦慄せしめよ。此書の如きは陳勝呉広のみ。
佐々木鏡石・佐々木喜善のペンネーム
昨年八月の末自分は遠野郷に遊びたり。花巻より十余里の路上には町場三ヶ所あり。其他は唯青き山と原野なり。人煙の稀少なること北海道石狩の平野よりも甚だし。或は新道なるが故に民居の来り就ける者少なきか。遠野の城下は則ち煙花の町なり。

「願はくは之を語りて
平地人を戦慄せしめよ」

(『遠野物語』序文より)

2 事業実施に至る経過

永遠の日本のふるさと遠野



第3期遠野市地域福祉計画

(平成28年度～32年度)

【基本理念】

- ① 地域でその人らしく暮らせるよう個人の尊厳を重視
- ② 住民参画・市民協働による社会福祉の実現
- ③ 福祉による地域の活性化

【基本目標】

- ① ワンストップの福祉サービス
- ② 地域福祉コミュニティの充実
- ③ 地域福祉の総合的推進
- ④ 安心安全な福祉によるまちづくり

第2次遠野市総合計画基本構想・前期基本計画

(平成28年度～平成37年度)

(平成28年度～平成32年度)

【基本理念】 遠野スタイルの創造・発展
大綱2 健やかに人が輝くまちづくり

【将来像】 永遠の日本のふるさと遠野

遠野型地域包括支援システムの推進

医療環境の充実

健康づくりの推進

心と体をきたえ、温かい
家庭と明るいまち

「わらすっこプラン」の推進

「ハートフルプラン」の推進

障がい者の自立支援

2 事業実施に至る経過

永遠の日本のふるさと遠野



第3期遠野市地域福祉計画（平成28年度～32年度）

基本目標	施策の方向
1 ワンストップの福祉サービス	(1) 多職種連携の仕組みづくり
	(2) 身近な相談窓口
2 地域福祉コミュニティの充実	(1) 災害時要援護者の支援
	(2) 民生委員・児童委員活動の支援
	(3) 見守り体制の充実
3 地域福祉の総合的推進	(1) 地域福祉懇談会の開催
	(2) 福祉教育と地域活動
	(3) 地域福祉活動コーディネーター(CSW)の育成
	(4) ボランティア活動の推進
4 安心安全な福祉によるまちづくり	(1) 権利擁護の周知と利用促進
	(2) 心のケアと自殺予防の支援
	(3) 生活困窮者の自立支援の推進
	(4) ユニバーサルデザインと心のバリアフリー



第3期遠野市地域福祉計画 (平成28年度～32年度)

【施策の方向(概要抜粋)】

○多職種連携の仕組みづくり

複数の生活・福祉課題を抱える市民の相談対応と総合的・一体的な支援の必要性
関係機関・団体との連携協力により多くの相談・支援専門職が連携(多職種連携)し支援にあたる仕組みを構築

○身近な相談窓口

地域の身近な相談窓口(民生委員・児童委員、保健推進委員など)の役割が大きいが対応困難な相談も多い

多課題を抱える世帯の場合など、必要な支援を横断的に繋ぎ、新たなサービスをつくり出す取組をコーディネートする役割の人が地域に必要となっていることから、配置を目指していく

○地域福祉活動コーディネーター(CSW)の育成

福祉ニーズに対応した地域福祉活動を効果的に行うために、地域の生活・福祉課題を把握し、関係機関・団体等と協力し、支援の内容や方法などを検討するとともに、公的なサービスとインフォーマルな福祉活動とを繋ぎ、具体的な支援に結びつける「コミュニティソーシャルワーク機能」を担うことができる地域福祉活動コーディネーターを育成するとともに、この仕組みの理解促進を図る

【社協が策定した第3期地域福祉活動計画(平成28～32年度)】

地域の福祉課題の解決に向け、地域に密着した福祉活動が展開できるよう活動圏域を設定し、社会福祉協議会の地区担当制を整備し、将来に向けては11地区への地域福祉活動コーディネーター(CSW)の配置を検討する。

2 事業実施に至る経過

永遠の日本のふるさと遠野



とは言え、実現するためには財源が・・・

【大橋謙策先生】 公益財団法人テクノエイド協会理事長、東北福祉大学大学院教授、日本社会事業大学名誉教授

平成5年に旧遠野市で策定した「遠野・ハートフルプラン～福祉で夢のあるまちづくり」は、大橋先生自らが地域に出向いて住民と懇談し、取りまとめた老人保健福祉計画。

その縁から、平成25年度よりCSWの養成を主目的としながら、多分野、多職種を対象に地域福祉の在り方等の研修指導を行っていただいた。

平成28年度に先生から「我が事・丸ごと」の地域づくり推進事業の実施を奨められる。

財源は見つかったがどうしよう・・・

【何を行うか？】

①住民の身近な圏域で、住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくり、②育児、介護、障がい、貧困、さらにはダブルケア（育児と介護に同時に直面する家庭等）など、世帯全体の複合化・複雑化した課題を包括的に受け止める総合的な相談支援体制づくり

【遠野にあった形は？】

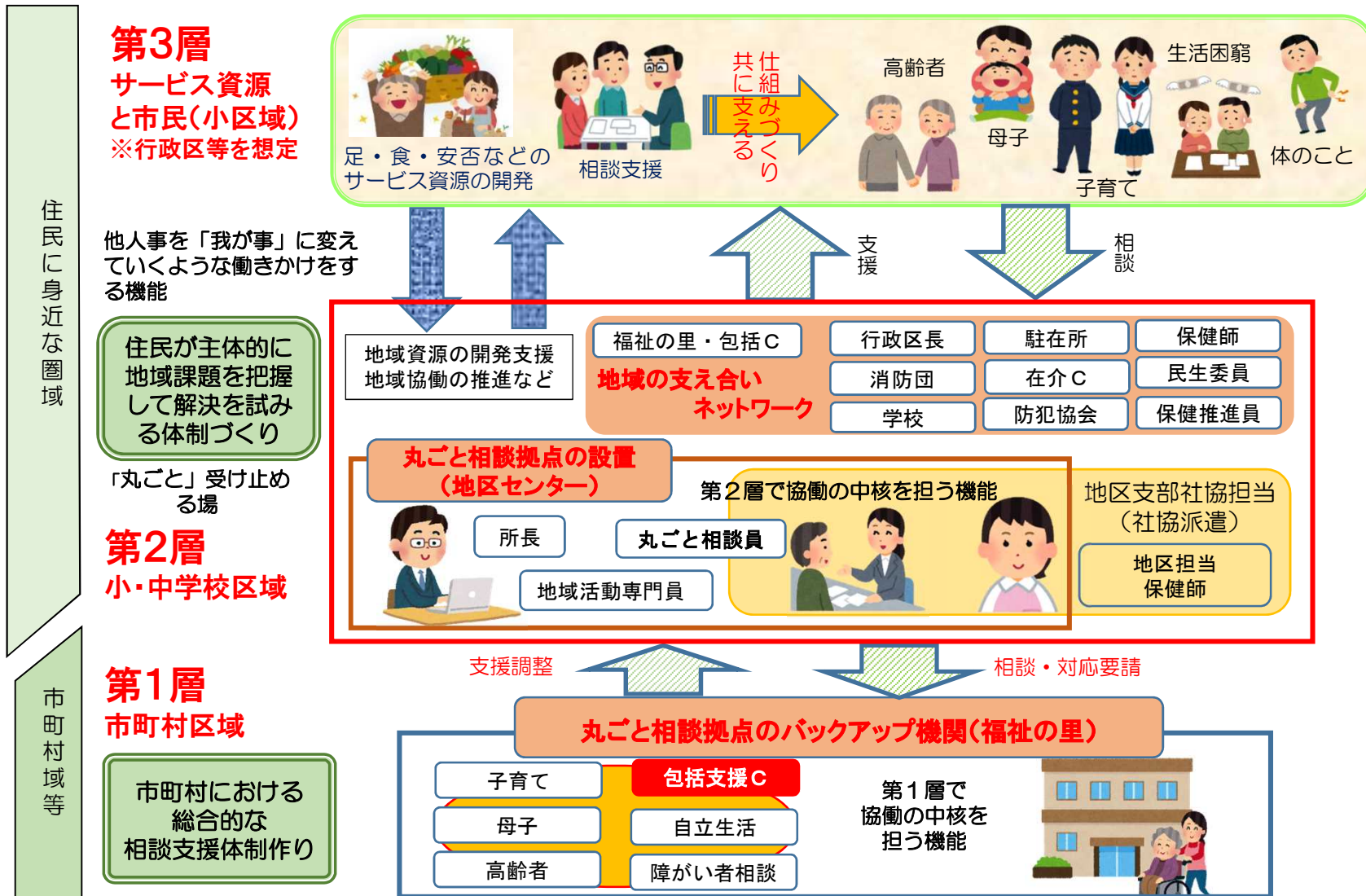
①第1層（市町村区域）を地域包括支援センターを中心とした「丸ごと相談拠点」として位置づけ多機関との協働体制を構築、②第2層（遠野市では町単位）は、生活支援コーディネーターと相談支援包括化推進員（丸ごと相談員）が中心となり9地区において地域協働の仕組みを構築

3 事業の実施内容

永遠の日本のふるさと遠野

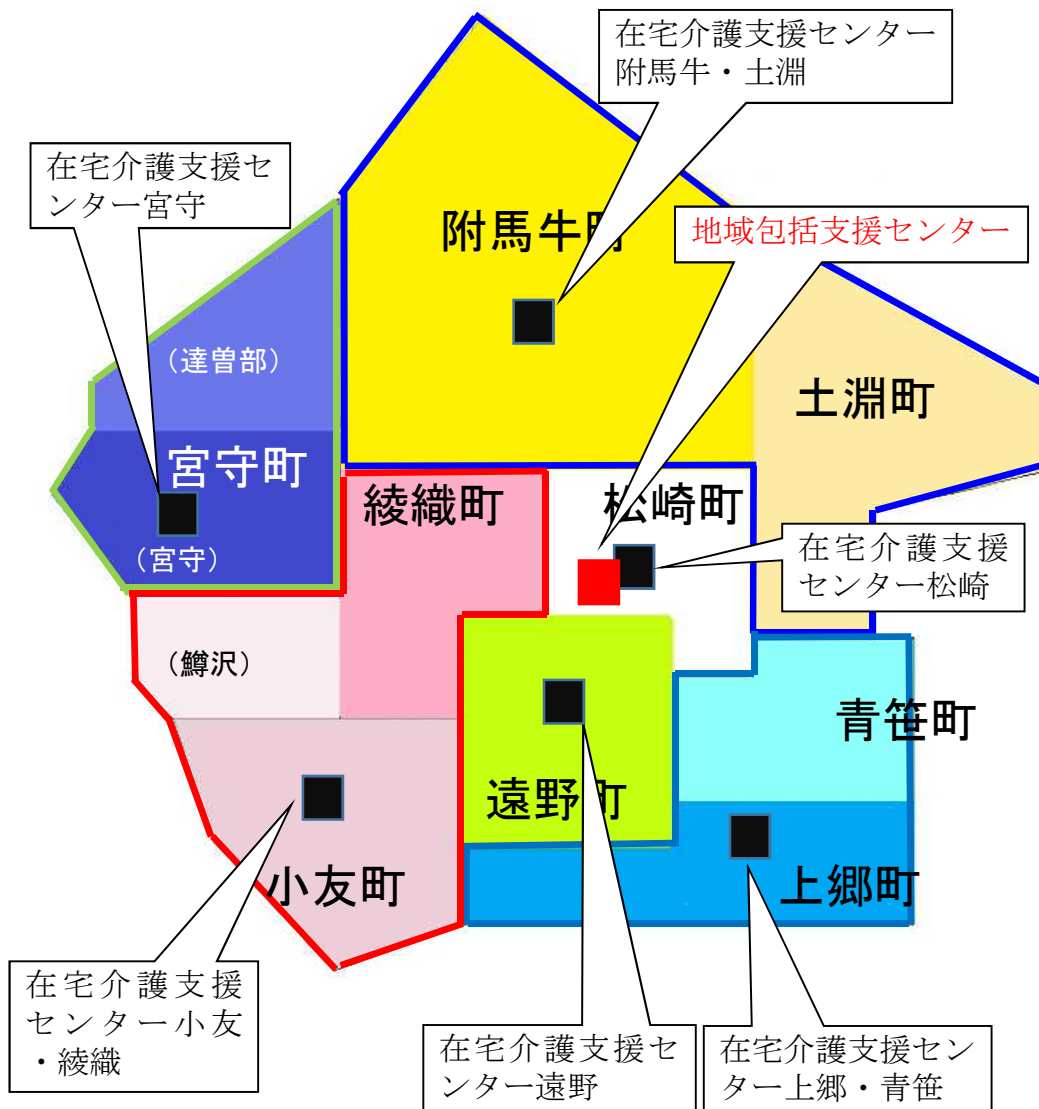


多機関の協働による包括的相談支援体制構築事業のイメージ



4 事業実施前の状況

永遠の日本のふるさと遠野



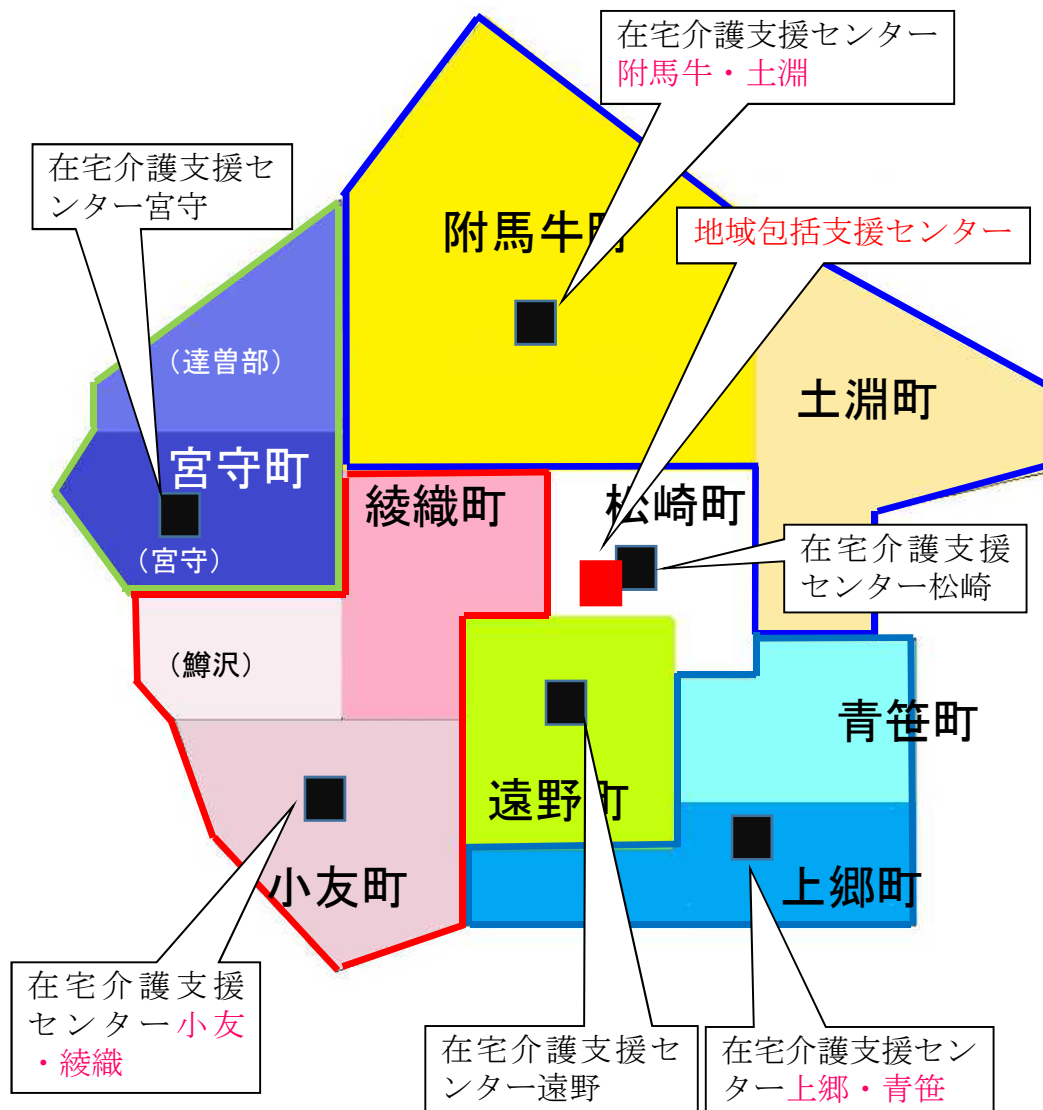
○在宅介護支援センターは、地域包括支援センターのブランチとして、市内6カ所に設置

＜在宅介護支援センターの委託先＞

遠野	社会福祉法人とおの松寿会
松崎	医療法人社団敬和会
小友・綾織	社会福祉法人遠野市社会福祉協議会
附馬牛・土淵	社会福祉法人遠野市社会福祉協議会
上郷・青笹	社会福祉法人遠野市社会福祉協議会
宮守	社会福祉法人とりり会

4 事業実施前の状況

永遠の日本のふるさと遠野



○在宅介護支援センター相談員6人が平成29年4月から生活支援コーディネーターを兼任

○生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)の役割

高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進して行くことを目的とし、地域において、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能(主に資源開発やネットワーク構築の機能)を果たす。

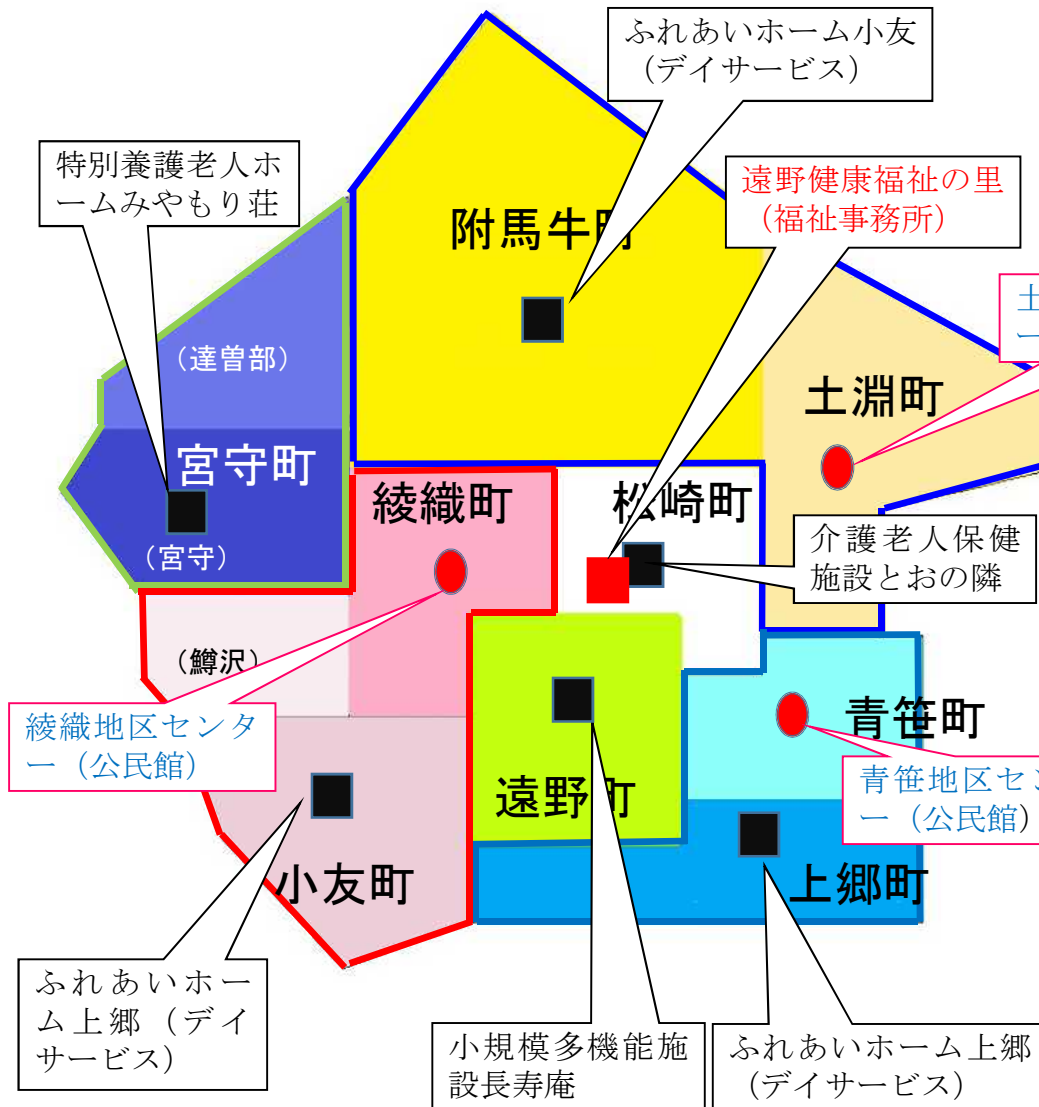
○遠野市社会福祉協議会が運営する在宅介護支援センター3箇所は、2町を担当することから、社会資源の構成団体・住民が異なる地域でのコーディネートを兼務することの困難さが予測された。

<在宅介護支援センターの委託先>

遠野	社会福祉法人とおの松寿会
松崎	医療法人社団敬和会
小友・綾織	社会福祉法人遠野市社会福祉協議会
附馬牛・土淵	社会福祉法人遠野市社会福祉協議会
上郷・青笹	社会福祉法人遠野市社会福祉協議会
宮守	社会福祉法人ともし会

5 事業実施後の状況

永遠の日本のふるさと遠野



○丸ごと相談員を配置

綾織町、土淵町、青笹町に各1名を置くとともに、福祉施設ではなく、地区センター(公民館)に席を設けて、地域に溶け込んで活動

○丸ごと相談員(相談支援包括化推進員)の役割

相談者等が抱える課題を把握するとともに、課題解決のために相談支援機関等においてそれぞれ実施すべき方向性等に関するプラン作成を行うとともに、会議開催等により調整を行い、必要により助言・指導を行う。

市内6箇所配置する生活支援コーディネーター(在宅介護支援センター)との連携・組み合わせにより、**9町に各1名の福祉専門職による対応が実現**



国の2つの事業の取り組み状況

○地域力強化推進事業

①「住民に身近な圏域」において、地域生活課題に関する相談を包括的に受け止める体制の整備

丸ごと相談員をモデル3地区に配置したことにより相談員が住民に身近な場所で相談を受ける体制を整備

②「住民に身近な圏域」において、地域住民等が主体的に地域生活課題を把握し解決することができる環境の整備

丸ごと相談員が活動する地区センター(公民館)で、普段から区長、民生児童委員等の地域団体の関係者と顔なじみの関係をつくり、一緒に取り組む環境が整備

各地区センターには、市社会福祉協議会地区支部があり、支部から提案されたまちづくりのアイデアに社協自主財源で「とおのの福祉トッパーモデル事業」として活動助成を行って地域が主体となって課題解決を進める試みがスタート

○多機関の協働による包括的支援体制構築事業

丸ごと相談員を地区センターに配置することで、地域で埋もれていた相談者等が抱える課題を掘り起こすことができるようになったほか、地域で連携してケースに関わることができるようになってきた



国の2つの事業の取り組み課題

○多機関の協働による包括的支援体制構築事業

第1層レベルで、各相談窓口が実務において有機的に連携できる仕組みを再構築する必要がある。

①多職種で構成される「新しい遠野の医療と介護を考える会」の立ち上げ

- 1) 保健医療福祉サービスに係る課題抽出と多職種協議の推進
- 2) 各職種の取組みを会全体で共有をして行政へ提言
- 3) 提言をもとに専門性向上や連携強化を目的とした新たな合同企画を創出

②相談窓口連携体制調整会議の検討

- 1) 市役所内の相談窓口(市から委託する相談窓口を含む)と社会福祉協議会の相談窓口との連携体制構築(残っている縦割り意識の改善)
- 2) 相談支援包括化推進会議をプラン進行管理の場へ転換

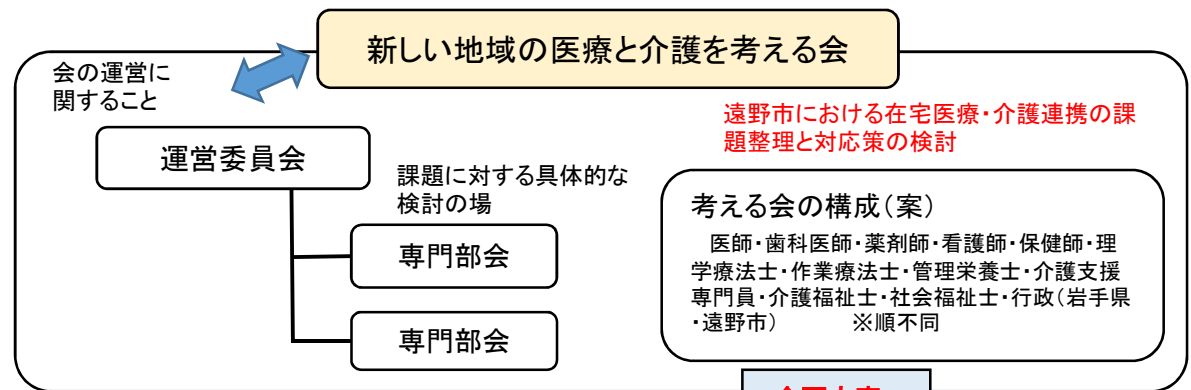
※現在、遠野市社会福祉協議会が受託している自立生活支援相談窓口(生活困窮自立支援)との共同開催の形で定例会を月1回実施。プラン作成された内容を相談支援機関等で共に実施して進行管理する体制づくりへ。

遠野市新しい地域の医療と介護を考える会の組織イメージ(案)

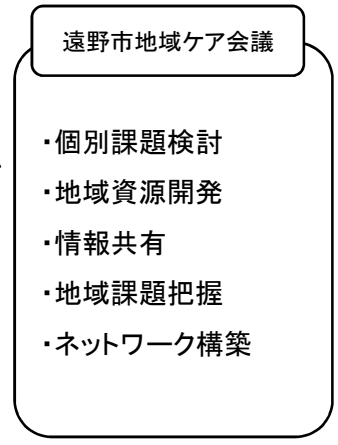
永遠の日本のふるさと遠野



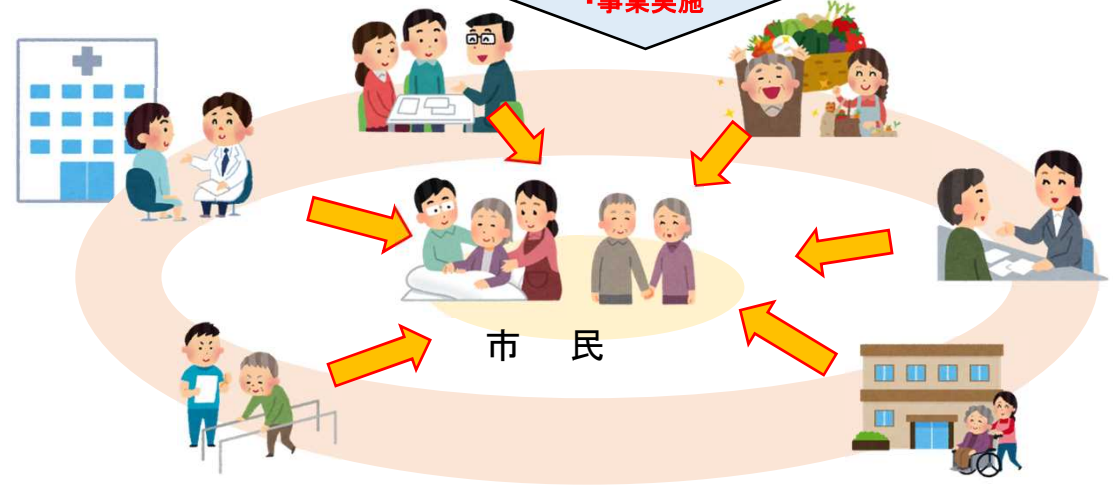
基本理念 市民が住み慣れた地域で、生きがいと尊厳を持ち、医療と介護の連携のもとで安心して暮らせる住みよいまちづくりの実現



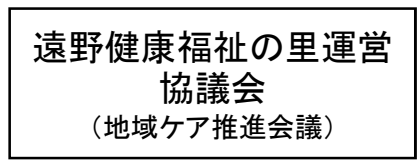
政策提言・ニーズの提供



企画立案
事業実施



社会資源創出の提案
政策実施



医療及び介護機関の相互連携と多職種協働による包括ケア体制の構築実現



国の2つの事業の取り組み課題

○地域力強化推進事業

地区(第2層)での相談員再配置の検討や「地域の支えあいネットワーク」の具体化が必要である。

①生活支援コーディネーター(在宅介護支援センター相談員)の再配置

丸ごと相談員が地区センター配置されたことでメリットが明確化。福祉施設配置から地区センターへの再配置を検討。また、遠野市は9町で構成されているが、宮守町が3地区センター体制であることから、地区センター単位で考考えると11カ所の配置も検討課題に。

②各相談員の職務等の調整

生活支援コーディネーター(在介相談員)と丸ごと相談員の役割が異なる。同一の職務内容とする選択も含めて調整を検討。どのような役割を果たす相談員が地域に必要なのか。

③多くの地域団体との「地域の支えあいネットワーク」構築の具体化

住民を巻き込んだ「地域福祉マップづくり」や地区での「地域の支えあいネットワーク」構築のため支援調整会議の立ち上げを検討。



その他の取り組み

○社会福祉法人等の「地域における公益的な取組」の推進について

遠野市には遠野市社会福祉協議会をはじめ、5つの社会福祉法人が存在。地域の生活課題の解決には、社会福祉法人等の活動も大きな地域資源として期待される。

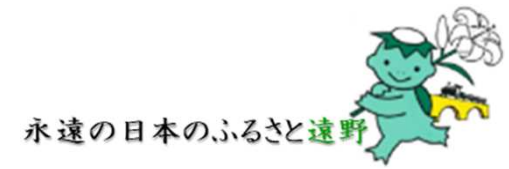
7月に『地域共生社会政策と社会福祉法人及び介護保険事業者、障害者サービス事業者の地域貢献』をテーマに研修を実施。

その後、社会福祉協議会が旗振り役となって、市内の5つの社会福祉法人と2つの介護老人保健施設の代表等による公益的な取り組みの情報交換等実施。

○成年後見センターの立ち上げ

障がい者、高齢者の権利擁護を推進するため、平成31年度内に遠野市、釜石市、大槌町の2市1町で「釜石・遠野地域成年後見センター(仮称)」を立ち上げ、運営を開始します。

遠野市の魅力



四季の風景と郷土の祭り

自然と共生する暮らしの中で
培われてきた風習や祭りが今も息づく



駅前を出迎える旅の蔵遠野



新緑が映えるカッパ淵



黄金の稲穂に囲まれた荒神社



雪化粧のめがね橋



高清水から眺める雲海



馬力大会



ホップフェスタ



遠野さくらまつり



遠野納涼花火まつり



日本のふるさと遠野まつり



どべっこまつり